

### 【今日の説教から】

主があんなにもはっきりと死と復活の予告をしておられたのに、主の復活後に弟子たちは困惑し、信じられず、恐れ惑っていました。そんな弟子たちに主は何度も何度も現れ、ご自分が確かに復活なさったことをお示しになられ、御言葉を語り励まし、大漁の奇跡を再び見せて弟子たちの、いわば信仰の復活のためにお心を碎かれました。

幾度も幾度も現れてくださり、お姿を見せてくださり、限りないほどに弟子たちに触れる機会を作ってくださったのに、今日の箇所にありますように、その復活のイエス様を礼拝しながらも未だ疑う弟子もいたとのことにびっくりします。

何度も何度も現れ、御言葉を語り、奇跡の御業を見せて弟子たちを励ましてくださったのに、またすぐにその出来事を忘れ、目の前に主を見ながらも、主を拝しながらも主を疑う。主がそこにおられるのにもかかわらず主が分からぬ。弟子たちが繰り返し繰り返し道に迷うこの姿を、ペンテコステ前の出来事から何度も何度も読んでまいりました。

主はその都度その都度弟子たちが分かるまで共に歩き、語り続け、ご自身の姿をお見せになり、奇跡の業を行い、弟子たちが信じられるようにと忍耐強く接してくださいました。そして主は「世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」と語られ、弟子たちに使命を与えられました。共におられる主を信じ、御言葉に応答するのなら、奇跡を見ることが出来るのです。

皆様おはようございます。

はや5月も最後の週となりました。緑が濃くなり、梅雨が目前に来ているように感じます。聖霊降臨の出来事を思い起こすペンテコステの礼拝が再来週にあります。主の復活から7週間。その49日の間に実に40日にわたって弟子たちに主イエス様はお現われになられたと聖書には書いてあります。

私たちは、復活の日に空の墓で天使たちが女性たちに語り掛けて後、エマオの途上でイエス様が現れた様子や、集まっていた弟子たちに現れ、翌週トマスにも現れ、ガリラヤ湖で現れ、空っぽの舟の弟子たちに「子よ」と語りかけられ、大漁の奇跡をまたも見せてくださり、主の御言葉に聞き従うときに何が起こるのかを示してくださいました。

「イエスのなさったことは、このほかにまだ数多くある。もしいちいち書きつけるならば、世界もその書かれた文書を収めきれないであろうと思う。」ヨハネ 21:25

こう書いてある通り、この40日間の間にどれだけ主は弟子たちが気付かない間も彼らと共におられ、様々な働きかけをなさって弟子たちにお姿を現してくださいましたのでしょうか。何度「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである」と弟子たちに語られたのでしょうか。

イエスは、この書に書かれていないしを、ほかにも多く、弟子たちの前で行われた。

しかし、これらのこと書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである。

ヨハネ 20:30-31

イエス様はどのようなお方なのか。過去におられたお方というだけでなく、今も共におられるお方、目には見えなくても存在して、私たちと共におられ、お言葉を言い送られ、聞いて行う私たちに今日も神様の御業をお見せくださるお方であることを私達もしっかりと信じたいと願うのです。

28:16 さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行って、イエスが彼らに行くように命じられた山に登った。

28:17 そして、イエスに会って拝した。しかし、疑う者もいた。

今日の箇所では2度イエス様が「命じられた」と書いてあります。

先週の箇所でイエス様が「舟の右の方に網をおろして見なさい。そうすれば、何かとれるだろう」(ヨハネ 21:6)とおっしゃって、弟子たちがそのようにすると、「魚が多くとれたので、それを引き上げることができなかった」とあったように、主のお言葉には力があります。主のお命じには、それに従う者に大きな祝福をもたらします。

その命じられた山に登り、弟子たちはイエス様の前に膝をかがめて拝しました。

黙示録19章では、ヨハネが天使の前にひれ伏して彼を拝そうとしたときにこう語られたとの記録があります。

19:10 そこで、わたしは彼の足もとにひれ伏して、彼を拝そうとした。すると、彼は言った、「そのようなことをしてはいけない。わたしは、あなたと同じ僕仲間であり、またイエスのあかしひとであるあなたの兄弟たちと同じ僕仲間である。ただ神だけを拝しなさい。イエスのあかしは、すなわち預言の靈である」。

イエス様はここで弟子たちの礼拝をお受けになられました。

28:17 そして、イエスに会って拝した。しかし、疑う者もいた。

「しかし、疑う者もいた」。これはどういう事でしょうか。

あんなにもいつもいつも弟子たちと共におられたエス様を、未だ夢幻だと疑っているというのでしょうか。それとも、このイエス様を神の元から来られたメシアであり神の子救い主であり、神ご自身であって礼拝を受けるにふさわしいお方であるという事を疑う者がいた

という事でしょうか。

これはそれぞれに当てはまる事のように感じます。

出会って、また見えなくなって、また現れてという事を何日も何日も主は繰り返され、忍耐強くご自身の復活を弟子たちが信じることが出来るようにしてくださったのですが、それでもなお見ながらも、礼拝しながらも、このお方は本当におられるのだろうか、単なる幻ではなかろうかと考え、また同時に、このお方は私たちが膝をかがめて神様に対するように礼拝をするのにふさわしい方なのだろうかと疑う人もいたということが分かるのです。

私たちもまた、どうであろうかという事が示されます。

私たちは直接この目でイエス様を見たことはありませんが、書ききれないほどに目撃談が記されている聖書の証言は真実であると信じます。

聖徳太子であっても、ソクラテスであっても、何千年も前の人について、多くの人は出会ったことがないからと言って彼らが実在したという事を疑わないのです。その書き記したことや、お弟子さんなど彼らを見た人たちの書いたものにより、はるか昔の人が実在したことを行確信しているのです。ですから、イエス様がおられたという事は、歴史の教科書に載るくらいに現在信じられています。しかし、主が十字架の後復活なさり、弟子たちに姿を現されたという事は、不可解だと思う人は少なくないと思います。そしてイエス様が実際どのような方なのかという事も、はっきりとしないという方が世の中にはおられる事でしょう。

何度も何度も復活のイエス様に出会い、十字架につかれる前と同様に力強い言葉を聞き、不思議な御業を見た弟子たちでさえ、まだそのことについては混沌としていて、疑いの余地があったという事がここには書いてあるのです。

28:18 イエスは彼らに近づいてきて言わされた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。

イエス様はご自身がどのような方であるのかという事を語られました。すなわちイエス様は、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた」というお方なのです。このことをもって、イエス様はただの人間や、人間に等しい神の御使いのような存在ではないことが分かります。

イエス様は権威者です。イエス様の権威はこの世の王たちのように地上での権威にはとどまらず、天においても発揮される、それも無制限の、一切の権威であることが分かります。これを持ちうる存在は、神しかありません。イエス様はご自分が神と等しい存在であることをここで語っておられるのです。私たちはそういうイエス様を疑いなく信じることが出来るでしょうか。

そしてその全権の権威者であるお方、絶対権力者であられるお方が御言葉をもって私たちに使命をもって命じ送っておられるのです。

28:19 それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

28:20 あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

「それゆえに」と主は語られます。その主イエス様の権威を認めない者はそれゆえにの後の命令を受けることはできません。この大宣教命令は、主の絶対的権威が語られ、それゆえに命じられる使命なのです。

私たちの主イエス様が、天でも地でも一切の権威を持っておられるという事を私たちは世の中にお伝えしていくのです。

28:19 それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

28:20 あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

それゆえに、私たちは主イエス様の権威に服する全世界に出ていくのです。そしてすべての国々の民を主イエス様の弟子とするのです。「父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教え」るのです。

主イエス様の贖いの十字架により、バプテスマにより洗い清められ、救いを得、主の命じられることを実行する。それを教える。これが主の弟子であるという事です。

ルカ 8:19 さて、イエスの母と兄弟たちとがイエスのところにきたが、群衆のためそば近くに行くことができなかった。

8:20 それで、だれかが「あなたの母と兄弟がたが、お目にかかるうと思って、外に立っておられます」と取次いだ。

8:21 するとイエスは人々にむかって言われた、「神の御言を聞いて行う者こそ、わたしの母、わたしの兄弟なのである」。

マタイ 7:24 それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。

7:25 雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。岩を土台としているからである。

ヨハネ 8:31 イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。

8:32 また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。

「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」

疑い惑う弟子たちに、主はいつも伴ってくださいました。そして主は世世の教会と共に、私たちと共に、世の終わりまで、そして永遠に共にいてくださいます。

そのお方を信じて、そのお方を伝え、洗礼を授けて御言葉を聞いて守り行う弟子を作る。私達も、この教会にて、その主の使命を遂げていきたいと願います。主の権威と力とを信じて大胆に進ませていただきましょう。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

見ても、出会っても、話を聞いても、御業を見ても、目の前に主を礼拝してもなおも主を疑う心のよぎる弟子たちを前に、イエス様は、「わたしは天と地の一切の権能を授かっている」と語られ、弟子たちに新たに使命を与えてください、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」とお励ましをくださいまして、ありがとうございました。

あなたのお言葉に従って実践するならば、必ずや恵み深い奇跡が伴うことを信じます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン